

近畿大学理工学部土木工学科 ○正会員 江藤剛治
(株)地域環境システム研究所 正会員 花嶋温子

土木構造物に付随する石碑・銘板をとりあげ、2種のアンケート調査を行った。

1. 予備アンケート

中堅技術者を対象とした調査では、回答者39人中28人(71.8%)の技術者が、構造物の現地に名前を残した事例を知っていた。単純に数の比較はできないが、ダム10、橋梁20、道路4、トンネル3、港湾1、その他3の具体的事例が判明した。碑や銘板はほとんど全ての種類の土木構造物に残されている。特にダムや橋梁に多い。ただし、橋梁や道路では一般人には目につかないような所に残されていることが多い。また、現在までの調査では、近年の河川や地下構造物では技術者の名前を残している事例は見つかっていない。実際に名前を残したことのある技術者のほとんどは、その仕事に愛着を感じ(73.7%)、誇りに思っている(78.9%)。家族や友人をその現場に連れていった人も多い(42.1%)。

2. 全国のダム・発電所を対象としたアンケート

構造物の種類をダムに絞った2つ目のアンケート調査は、表-1に示すように、全国の497カ所のダム・発電所から回答を頂いた。アンケートは、94.5%という異例の高回収率となった。各種の碑や銘板の有無を表-2に示す。それぞれの種類の碑について、ダムの竣工年度や堤高、有効貯水量によって整理した。紙幅の都合上、名前を記した石碑・銘板の有無を、ダムの竣工年度順に整理した結果のみを図-1に示した。「100人以上の名前の入った碑」について、宇治発電所に碑の建てられた1913(大正13)年は、ちょうど土木学会が創立された年でもある。また、前年の1912(大正2)年には憲政擁護運動が激しくなり、第3次桂内閣が倒壊する大正政変があり、大正デモクラシーの最中でもあった。

結果として、ダムに残された石碑や銘板は、時代背景や、土木を取り巻く状況、土木事業執行のシステムを色濃く反映することが判った。現代を反映する最近のダムでは、100人以上の工事関係者の名前を、同一の大きさの文字で、時には五十音順で残す傾向にある。

建設に携わる人々の気持ちを大切にすることによって、構造物の品質管理につながる方策を見いだせないか調査を続けていく方針である。

謝辞：アンケートに御協力頂いた皆様に感謝いたします。また、貴重なご意見を頂いた建設省土木研究所環境部長竹林征三氏、兵庫県土木部河川開発課副課長佐々木良作氏に感謝の意を表します。

表-1 アンケート回収数と回収率

	宛先 不明	実質 送付数	回収数	回収率
建設省直轄ダム	0	73	71	97.3%
農水省直轄ダム	0	20	18	90.0%
水資源開発公団ダム	0	19	18	94.7%
県営ダム	10	299	269	90.0%
(ダム小計)	10	411	376	91.5%
発電所	15	115	121	105.2%
総合計	25	526	497	94.5%

表-2 各種の碑や銘板の有無に関する集計結果

名称や諸元の碑(銘板)がある	402 (82.4%)
土木技術を顕彰する碑(銘板)がある	29 (5.9%)
殉職者の慰霊碑(銘板)がある	185 (37.9%)
建設前の様子や歴史の碑(銘板)がある	53 (10.9%)
立ち退いた人々を偲ぶ碑(銘板)がある	97 (19.9%)
歌碑(銘板)やモニュメントがある	82 (16.8%)
建設に係わった人名の碑	
100人以上の名前の碑(銘板)がある	45 (9.2%)
10人以上100人未満の碑(銘板)がある	64 (13.1%)
2人以上10人未満の碑(銘板)がある	36 (7.4%)
1人だけを称える碑(銘板)がある	28 (5.7%)
集計対象としたダム・発電所総数	488 (100.0%)

(単位：ダム・発電所数)

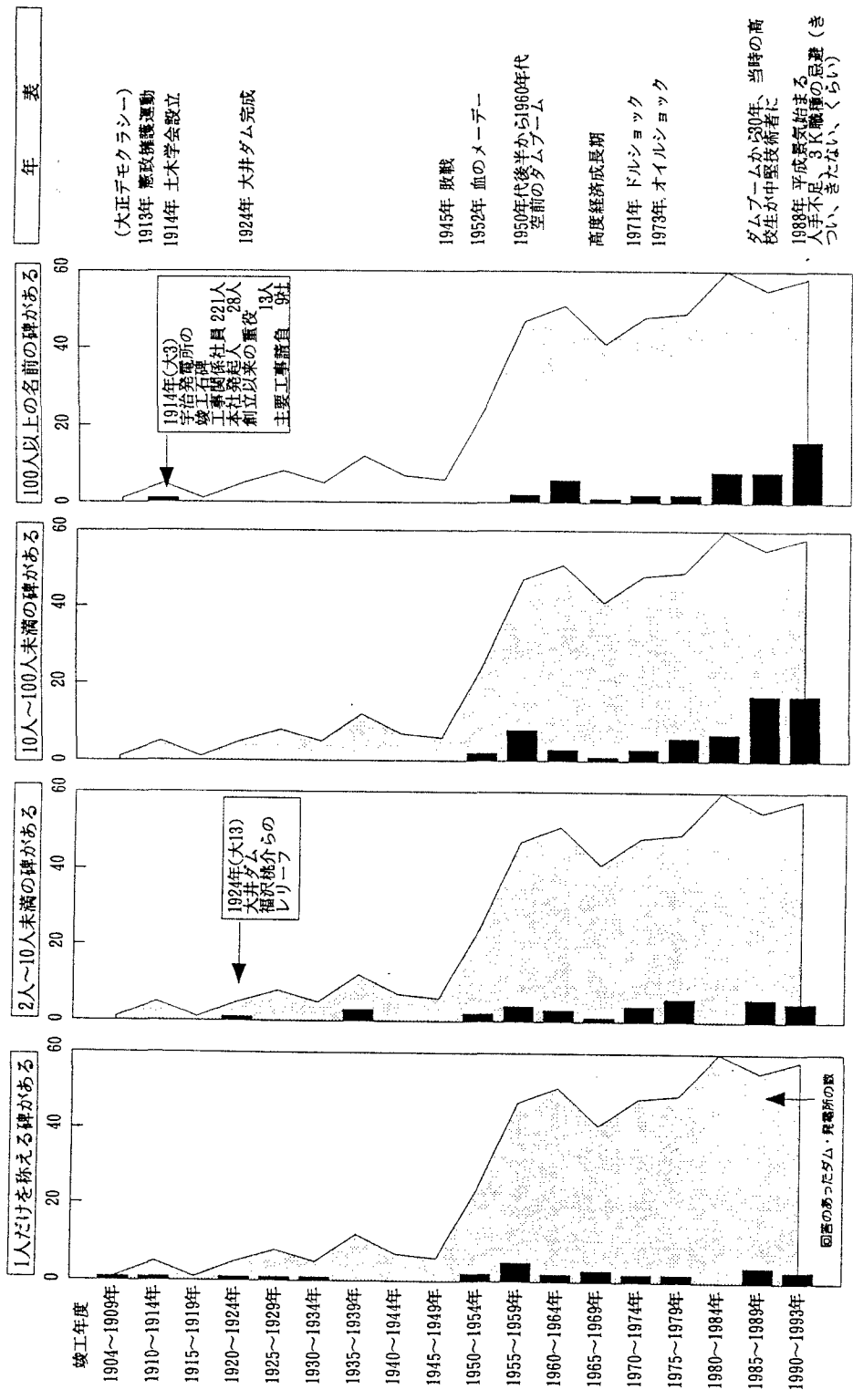


図 - 1 名前を記した石碑・銘板の有無 (年代順)